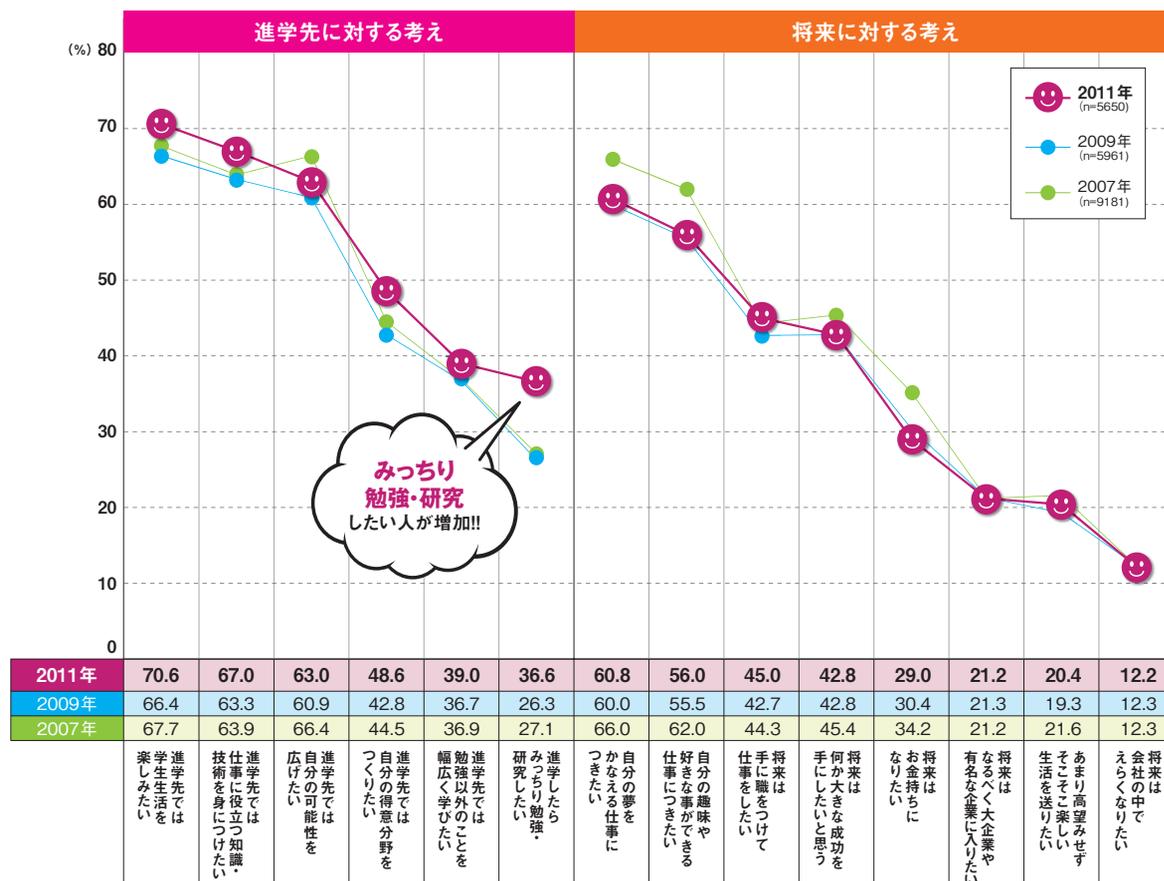


高校生は進学後や将来についてどう考えているか

小社では、高校生がどのようなプロセスを経て進路を決定しているかについて、高校卒業時点の生徒を対象に2年ごとに調査しています。その最新結果のなかから、進学・将来に対する考え方のデータをご紹介します。

●進学者(浪人含)の進学・将来に対する考え方



※各項目について「あてはまる」「まああてはまる」「どちらともいえない」「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の選択肢より1つ選択してもらったうち「あてはまる」の回答率をグラフ化
出典：リクルート「進学センサス2011—高校生の進路選択に関する調査」(在籍高校所在地を埼玉、千葉、東京、神奈川、愛知、京都、大阪、兵庫に限定した集計による経年比較)

「『みっちり勉強・研究したい』が2年前より10ポイント増加」
高校生の進学先・将来に対する考え方は、この数年間でどのように変化したのだろうか。値が増加した項目のなかで目を引くのが、これまで3割に満たなかった「進学したらみっちり勉強・研究したい」が10ポイントもアップした点だ。その理由について岡山県立勝山高校教頭の三浦隆志先生は、大学に入りやすくなり希望すれば自分のやりたいことに手が届くようになったという状況に加え、キャリア教育の浸透も「因ではないかと指摘。進学校で総合的な学習の時間を利用したキャリア教育プログラムの構築にかかわった経験を踏まえ、こう話す。
「最近の生徒たちは、偏差値やでできる・できないだけではなく、将来を見据えて進学後の学びをとらえるようになってきていると感じます。2003年に現場の強い反発のなかで始まった総合学習ですが、キャリア教育等に活用する学校が増えてきたことによる影響が、今年度の卒業生あたりから数値に表れ始めたのでは。進学後もそうした意欲を持ち続けられるよう、進学先との連携も進めていきたいですね」
ネット版ではこのほか「受験勉強時の悩みは?」「進学先検討時に何を重視する?」「どんな進路指導を受けた?」など、5つの調査結果も紹介している(★)。ぜひチェックを。